

進行状況は？ 桑原地域の市街化

中村 修 議員

問 桑原地域市街化構想実現の請願が採択され、地権者も、行政も企業誘致に向けて努力しているようだが、進行状況は。

市長 民間開発による新たな商業拠点として、同構想の早期実現を目指している。

まちづくり振興部長 この地を開発可能な地域とするため、農地転用手続が必要となっている。その準備として、同意された方々を中心に地元で協議会を設置し、約50%の同意を得ている。

問 同意を取ったらすぐ物事が進むという期待がある。不安を解消するため説明や情報提供を求める。

まちづくり振興部長 同意後、設計、テナント探し、関東農政局との協議等々で早くても3年の見込み。説明会等を考えている。

問 市として、この桑原地域をどのように考えているのか。

答 駐車場ができたりするなど、小さい部分で農地転用が進んでいる。小さな開発を追認していくと、全体的に統一感のない土地利用となってしまう。強力的に交渉して都市的な土地利用に変えていきたい。

統廃合基準にずれ 山王小

赤羽 直一 議員

問 学校統廃合の基準は。

教育部長 小学校は、1学級30人前後、2学級掛ける6学年の12学級。それと二つの小学校で一つの中学校。また、地域のコミュニティを壊さないことで計画。

問 山王小は、六郷小と高井小に分かれ、中学校に行くときは山王地区の人たちは藤代中に行く計画だが、

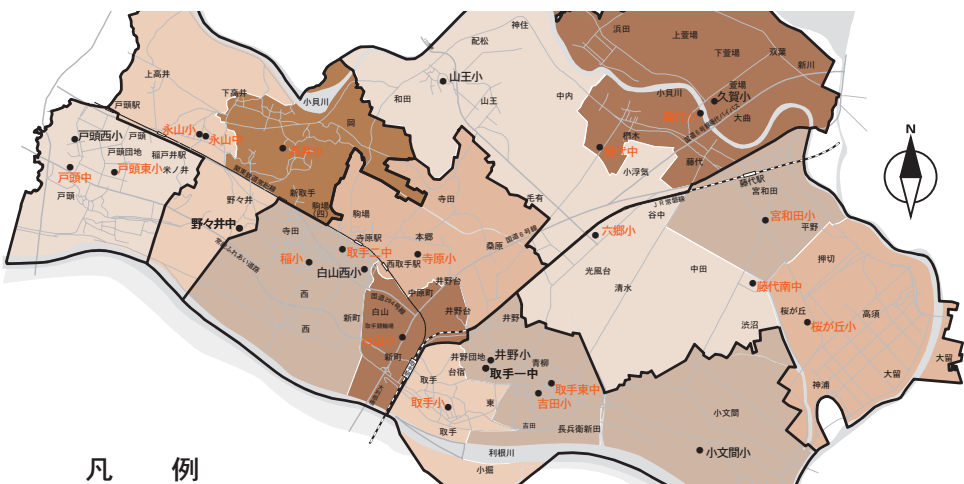
基準からずれているのではないか。

答 合致するものではないが、審議会で最も時間をかけて議論した結果、この計画となった。

問 既に高井小に入れよう、二中へ行こうなど、山王地区の崩壊が始まっている。六郷小と統合しても2クラスにならない状況もあり、単なる数合わせの統廃合ではないかと考える。

答 話を進めて、どこからスクールバス通学になるのか。4キロを超えた場合を考えている。

小中学校適正規模適正配置審議会答申による適正配置後の通学区域



凡 例
● 現在の小中学校所在地
● 学校名 適正配置後の小中学校所在地
色塗り区域 適正配置後の小学校区域
— 適正配置後の中学校区

山積する 藤代地域の諸問題

遠山 智恵子 議員



藤代駅北口

問 藤代駅北口の道路改善には、道路整備計画を持つ必要がある。計画には、地元の声を聞くことが大前提なので、ぜひ市長には声を聞いていただきたい。

総務部長 昨年12月から地元懇談会を始めている。懇談会は、市政協力を員を通して呼び掛けをしている。

問 藤代公民館前の商店街は駐車スペースがない。公民館駐車場との併用はできないか。

まちづくり振興部長 教育委員会と協議していきたい。

問 大日山古墳について、周辺に住宅地もあるので、高井城址から一帯のスポットをまちづくりの一つとして取り組んでもらいたい。

市長 単に公園を整備すればいいだけでなく、地域との関係の中での必要な管理の在り方について、よく研究していきたい。



朝市の様子

農産物直売所を！ 取手駅西口

小嶋 吉浩 議員

今回、市長から取手駅西口の構想として、ウエルネス・タウン構想が示された。この実現までには時間がかかる。その間、西口の空き地に農産物直売所の設置を求める。

仮設の直売所を設置し、ニーズの把握をし、恒久的な農産物直売所につなげていきたい。

市長 農家の方々が農作物を売る場所としてだけでなく、駅前の可能性が発信できるので、検討したい。

まちづくり振興部長 農政サイドとしても非常に効果

があると思っっている。農家の方々と日程調整など、協議しながらできるだけ早い時期に展開していきたい。

精査してる？ 新焼却炉契約

林 京 議員

問 常総広域の新型焼却炉契約について、現焼却炉の基幹改修との金額の対照説明がされていない。

42%の市負担金は納得がいかないし、金額を本当に精査しているのかとの声がある。

政策推進部長 施設は建設中のため、建設後の施設管理になるが、できる限り経費節減に努め、負担額が軽減されるよう組合に働きかけている。

問 費用が高いという意見が出ています。

答 組合に建設解約時における違約金について意見を出しているが、仮定の話は、知らせるには至らない。

問 将来、市の常総広域への負担金は膨れ上がる。高齢者・障害者福祉を削っているのに、こんなにお金を掛けていいの。

市長 負担金支出は事実かもしれないが、施設が地元の心情的なものとの合意を形成してきた歴史について、忘れた議論しかできないのはいかがなものかと思う。